

# Ri-verse

## History

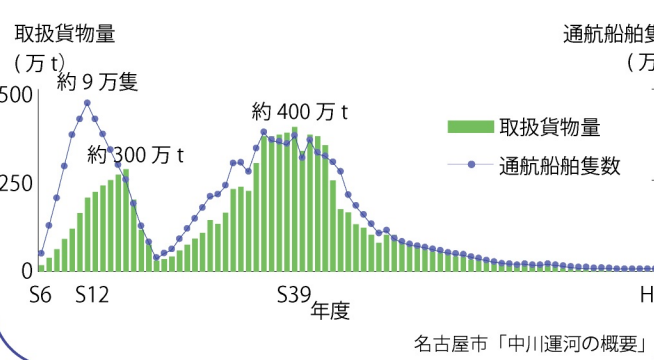
中川運河は元々、堀川以西の旧市街地の都市排水を受け入れる笈瀬川・中川という自然河川であった。近代の都市化の中で、運河として造成された歴史がある。

■ 笈瀬川・中川  
■ 中川運河



## Background

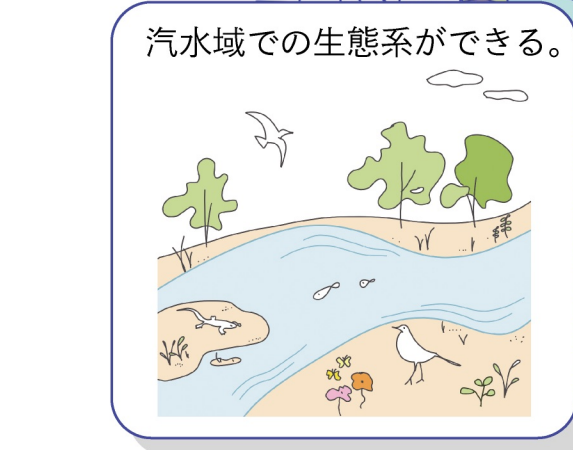
昔は年約10万隻が行き交った中川運河であるが、現在は、1日数隻のみとなり、運河としての役割が希薄化しつつある。



## Location

周囲は、中川運河と共に繁栄してきた倉庫群が残る。そのため、周囲は工業系中心で、人のための公園などのグリーンスペースが少なく、通日も大型トラックが多く健康的とは言えない。

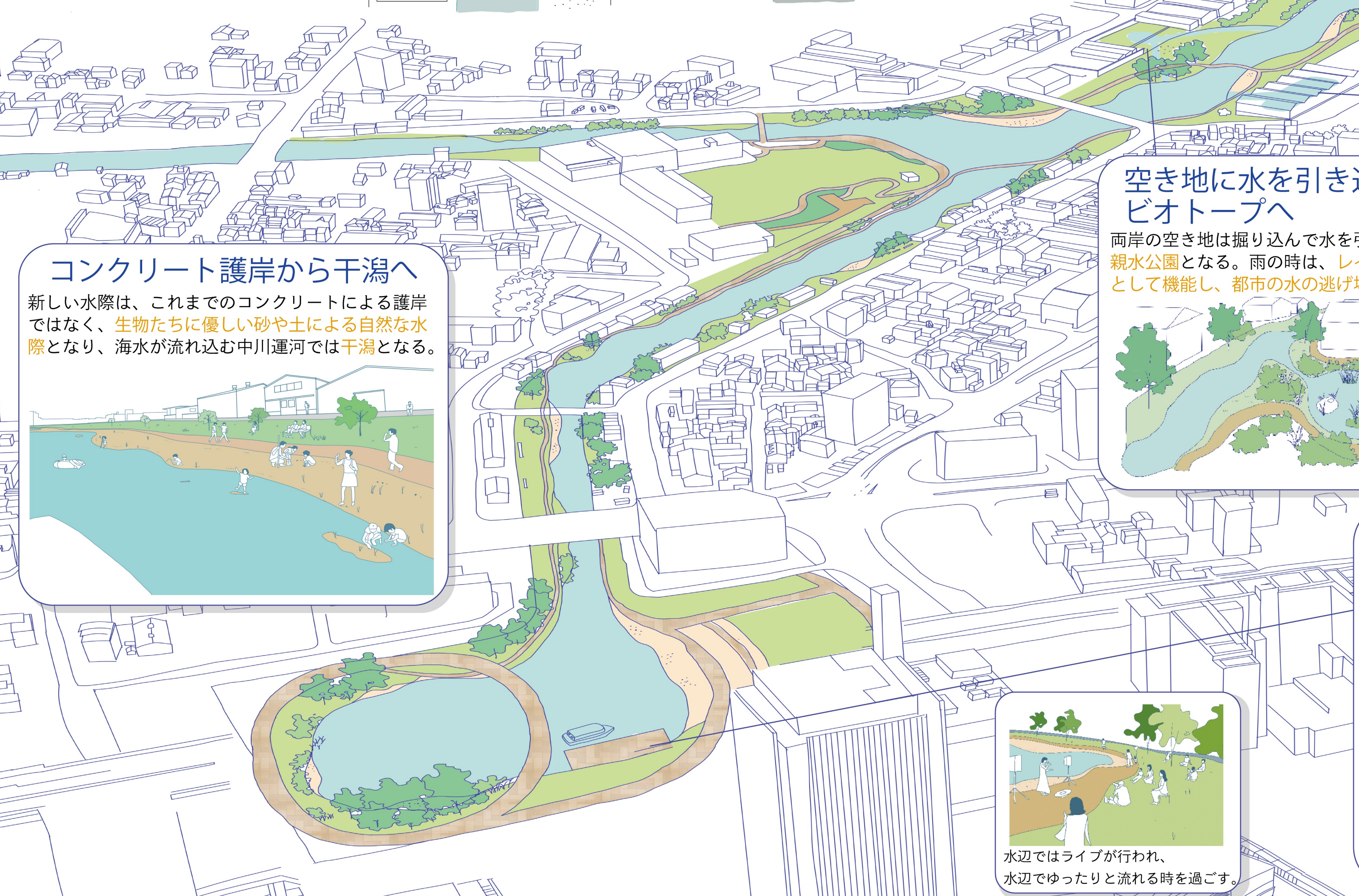
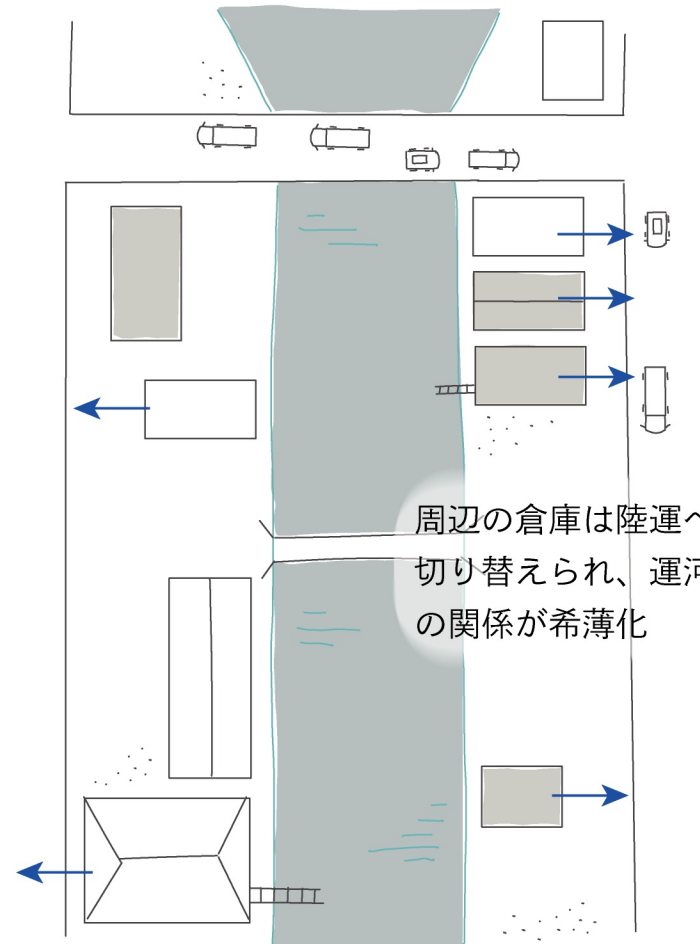
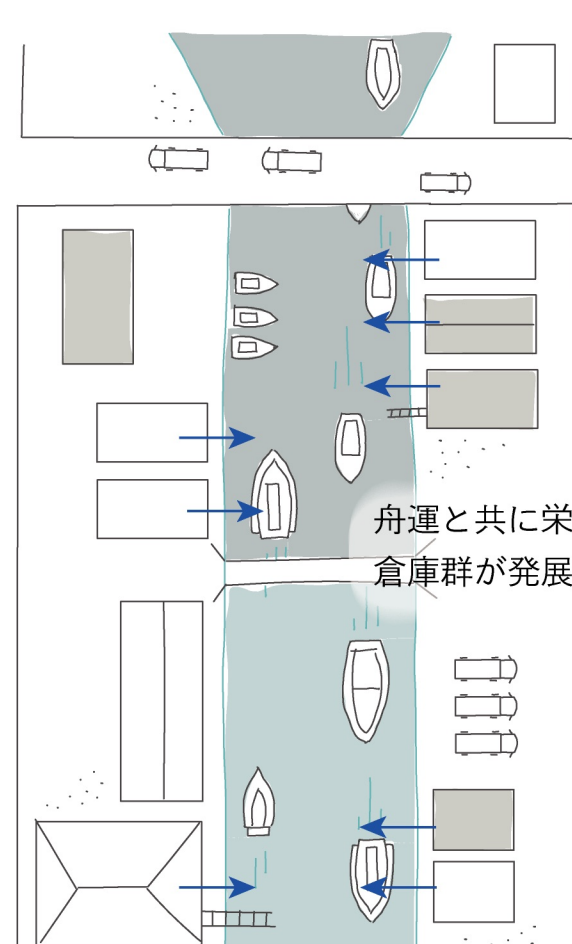
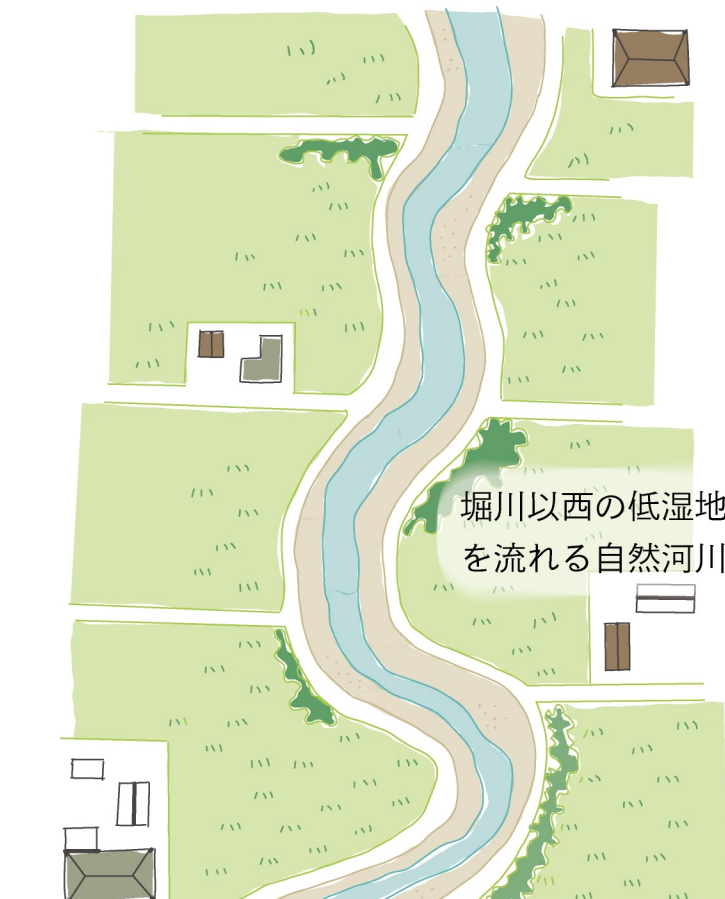
■ 公園  
■ 中川運河



明治以前 自然にできた中川  
大正 近代化の中で運河として造成  
昭和 運河としての役割の希薄化  
平成  
これまで  
これから

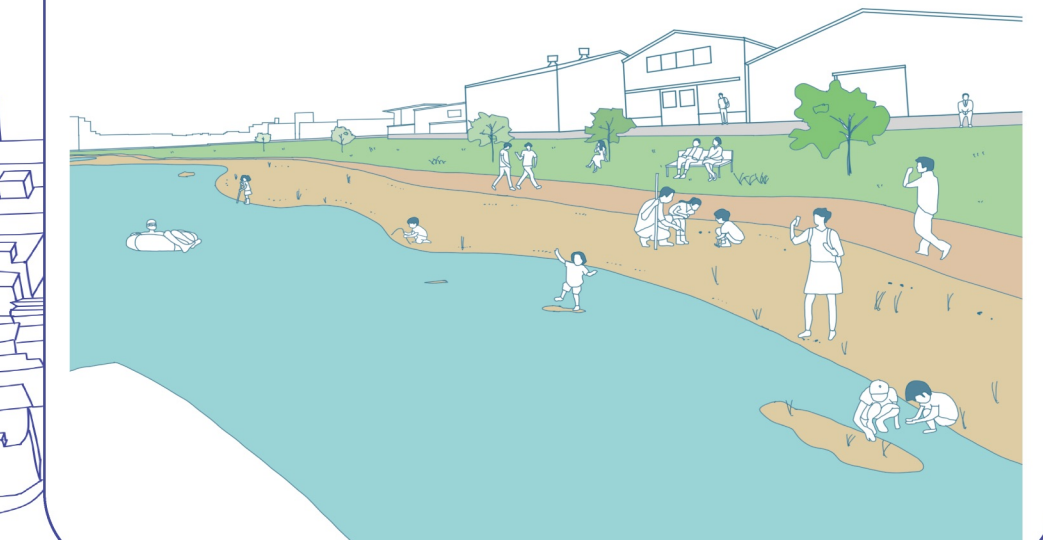
## 運河の川への再転換

- 中川の記憶の継承
- 新しい水辺空間への転換
- パブリックスペースの創出
- 生き物たちの居場所へ
- 土木遺産の保存
- 水質環境の改善



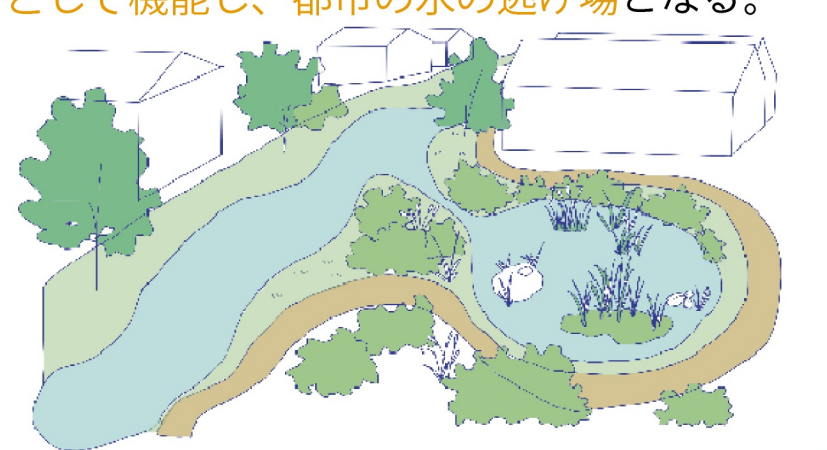
### コンクリート護岸から干潟へ

新しい水際は、これまでのコンクリートによる護岸ではなく、生物たちに優しい砂や土による自然な水際となり、海水が流れ込む中川運河では干潟となる。



### 空き地に水を引き込んでビオトープへ

両岸の空き地は掘り込んで水を引き込み、親水公園となる。雨の時は、レインガーデンとして機能し、都市の水の逃げ場となる。

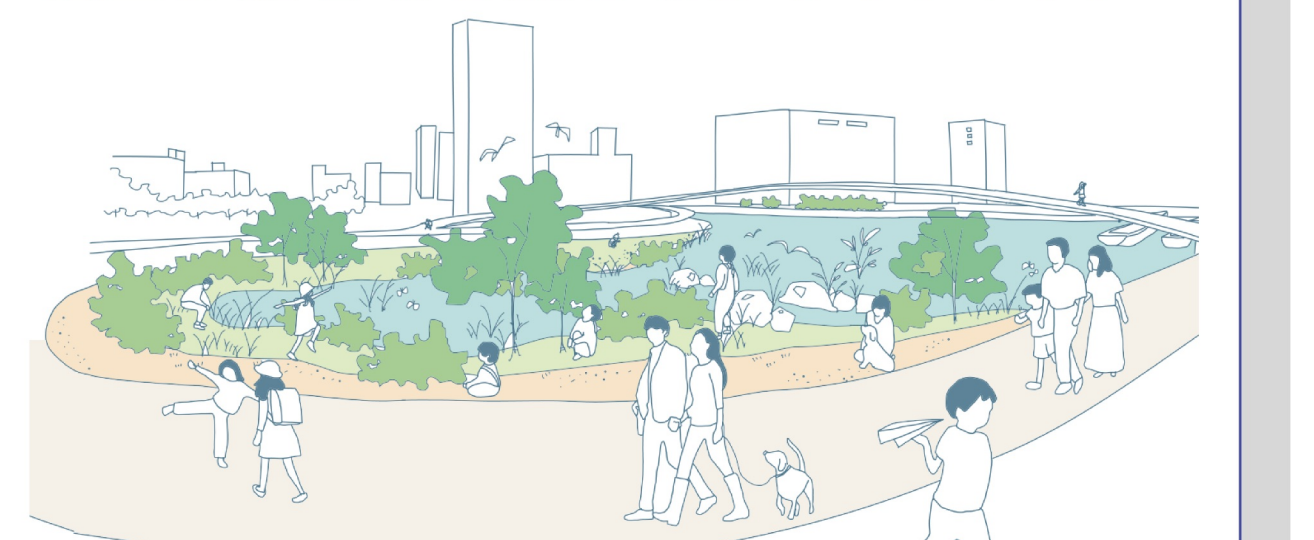


### 既存倉庫を水族館へ

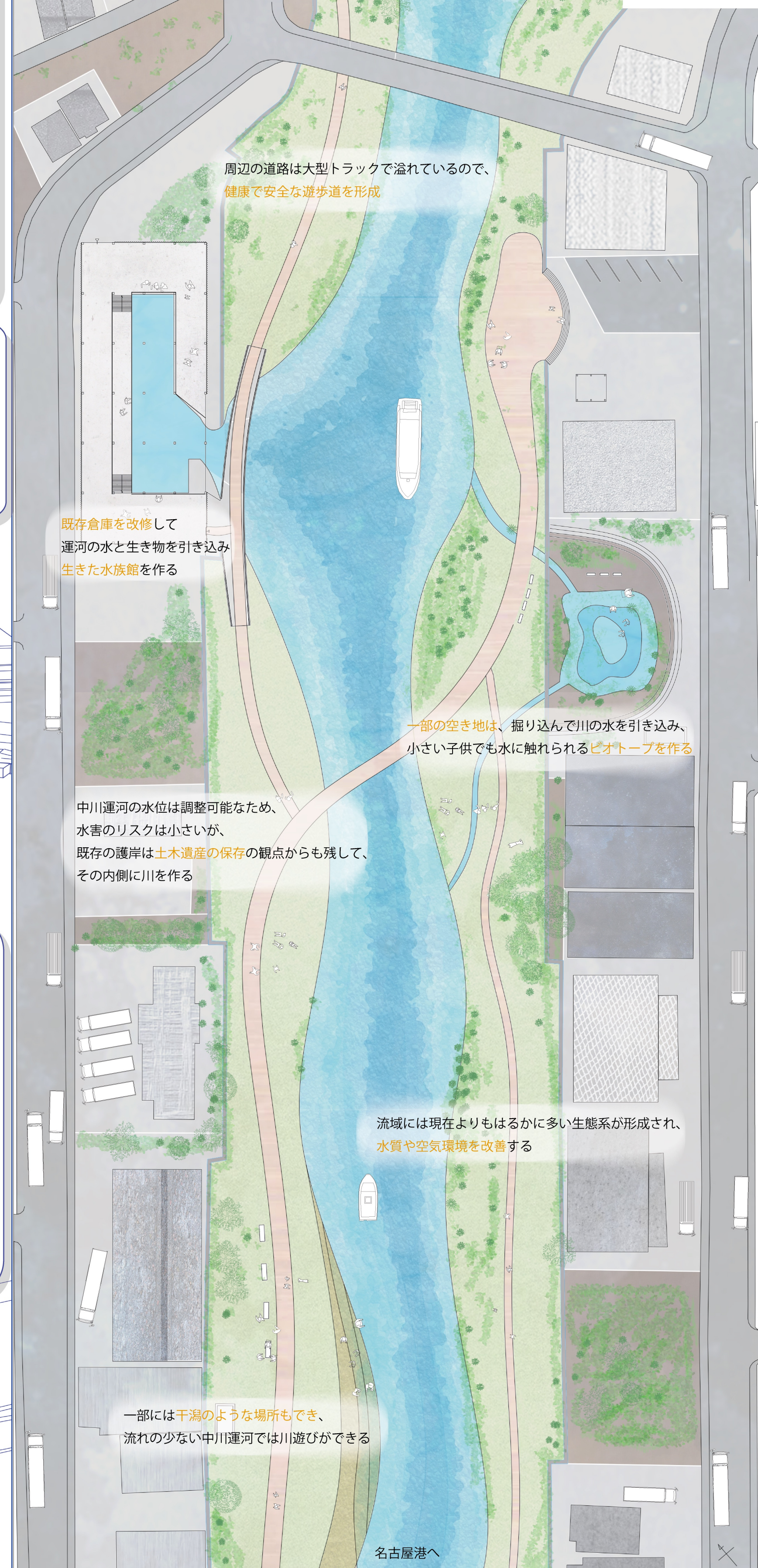
一部に未活用の倉庫が見られるため、その建物内にも水質浄化された川の水を引き込み、それと共に、生物も迷い込み、生きた水族館となる。



### 堀止は船着場を残しながらオアシスへ



中川運河北端の堀止地区は、中川運河クルーズの出发点としての船着場の機能を残しながら、ビオトープを作り、生き物が集い、子どもたちや地域住民が集う都市のオアシスとなる。



## Section 運河の川への戻し方

既存の護岸の一部には石積みもみられる。護岸はそのまま保存し、近くで眺められる

大正の中川運河造成時には出た土砂を両岸に積み上げて現在の運河を作った。その一部を戻すように、中川運河の空き地の土や、名古屋港の浚渫土を用いて、徐々に埋め立てていく

水質浄化作用が報告されている火力発電副産物のクリンカアッシュを蛇籠に詰めて築き、水質浄化を行う。

船の往来は維持するため、中川口閘門の幅の最低2倍(20m程度)は既存の水深として残す

一部の空き地は、掘り込んで川の水を引き込み、小さい子供でも水に触れられるビオトープを作る

中川運河の水位は調整可能なため、水害のリスクは小さいが、既存の護岸は土木遺産の保存の観点からも残して、その内側に川を作る

流域には現在よりもはるかに多い生態系が形成され、水質や空気環境を改善する

一部には干潟のような場所もでき、流れの少ない中川運河では川遊びができる